
開講科目名：民法研究（B）（2単位）
開設年次：1年 2年
開設学部：法学研究科修士課程法学専攻
担当者：濱口 弘太郎

《授業の概要》

授業の目標

民法中、物権に関する基本的なルールを習得し、紛争に対応する姿勢を身につけることを目標とします。

◆知識・理解の領域

誰が何についてどんな権利を持っているかは、取引をするための前提です。現在の社会の基礎となっている物権の基本ルールを理解します。

◆技能の領域

物権の基本的なルールを前提に具体的な紛争に対応する姿勢を身につけます。

◆態度・志向性の領域

不動産登記を確認することなどにより、実際の権利関係を調査することができます。これにより、身の回りの権利関係を把握することができるなど、自ら積極的に社会と関わるすることができます。

授業の概要

「民法175条が～～」などという、難しく聞こえるでしょうが、物権は身近な生活の基礎です。皆さんが住んでいる家に、ある日、いきなり知らない人が来て、「出ていけ」といわれたらどうすれば良いのでしょうか？ もちろん、多くの場合、出ていく必要はないと思いますが、本当に、退去しなければならないこともあります。皆さんの自宅は大丈夫ですか？ 法律関係を適切に把握していなければ、安心して、家に住むこともできません。

この授業では、身近な事例を挙げながら、物権に関する基本的なルールについて、講義形式で説明していきます。授業期間中に、小テストを実施します。条文を参照しますので、六法は、必ず持参してください。

なお、時間的な余裕がないので、制限物権は扱いません。出欠管理は適正に行います。

＜質問への対応＞

授業時間中に、質問を受ける時間を設けます。疑問点を共有し、みんなで考えることで、よりよく授業を理解することができます。授業中に解消できなかった疑問や授業後に出てきた疑問については、オフィスアワーで対応します。

評価方法

平常点（受講態度、小テスト）30%

レポート 20%

期末試験 50%

5回以上欠席した場合は、不合格にします。2回以上遅刻した場合は、遅刻2回で欠席1回と換算し、欠席回数に算入します。

＜小テスト・レポート・期末試験等のフィードバック＞

小テストは、採点のうえ、翌週の授業で、解説とともに返却します。また、レポートには評価を付けて返却します。期末試験の結果に関しては、評価に関する疑問等申出期間において対応します。

授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 物権概論・物権的請求権

第3回 物権の目的

第4回 所有権の意義・相隣関係

第5回 物権変動、特に所有権の原始取得

第6回 物権変動、特に所有権の承継取得

第7回 対抗要件

- 第8回 不動産登記
- 第9回 契約・その取消・その解除・相続と対抗要件の要否
- 第10回 取得時効と対抗要件の要否、民法177条の「第三者」
- 第11回 占有の意義及び態様
- 第12回 占有の取得、占有訴権、占有者の権利取得（取得時効・動物占有者）
- 第13回 占有者と本権者の関係、動産物権変動
- 第14回 民法178条にいわゆる「引渡し」、即時取得概論
- 第15回 即時取得中盗品又は遺失物に関する特則

＜予習及び復習＞

物権法は、多数の人の利害を調整しており、法律の中でも複雑な部類に属します。予習として、各授業前に、2時間かけて、テキストの該当箇所を読み、疑問点を明確にしておいてください。授業の後は、2時間かけて、授業内容を振り返り、もう一度、自分の頭で考えて、理解を深めてください。＜/NAIYO

《テキスト》

生熊長幸『物権法』（三省堂、2013年）